



園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 2023年2月1日

『育つ幼稚園』をめざして



暦の上では立春を迎えましたが、春まだ浅く寒さの厳しいが続きます。

そんな中、

「見て！生まれそう！」



園庭に植えたちゅうりっぷの芽が出ているのを見つけた年長児のつぶやきです。保育者は夕方、このつぶやきを記録しました。ほっこりしますね。子ども期ならではの表現です。それを聞き逃さない保育者の感性がまた嬉しいですね。



教育アンケート

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。改善できることは即実行していきます！

・写真の申し込み期間の改善

落ち着いて閲覧するために、土日を含んだ期間を設定します。

・手紙の電子アプリ化

4月から配信します。準備期間として3月に詳細をお知らせします。

・給食の改善・充実

4月から週5日の完全給食を実施します。遠足時のみ弁当になります。また、パン給食に副食を加えて栄養面の充実を図ります。給食費の変更については追ってお知らせします。

・年少児から体育遊びの導入

年少児からも体育遊びを取り入れます。「からだの力」のパワーアップを図ります。



折々のことば 鷲田清一

「子どもが「本を読んで！」というのは「一緒にいて！」ということです。

松居直

絵本を読み終えても「もう一回読んで」と言う。読んであげても心はお留守になっている。なのに読み終えるとまた「もっと」と言う。母親の気持ちが自分だけに向けられているというシチュエーションがきっと心地よいのだろう。

子どもは「作者の名前を覚えていなくても、誰に読んでもらったかは、覚えているもの」だと、児童書の編集者、松居直は言う。『絵本は心のへその緒』から

「甘えさせる」と「甘やかす」との違い？

子どもたちは「抱っこ」が大好きです。幼稚園でも「あっ、園長先生！」と目ざとく見つけては抱きつきにきてくれます。3歳児から5歳児までどの保育室でも見られる子どもたちの姿です。また、私の方からも身だしなみを整えるふりをしてズボンを上げたり、給食時には背中を触れながら姿勢を正したりと、スキンシップを心掛けています。私自身も子どもたちとのスキンシップを通して「安心感」をもらっています。

実は、この「安心感」が大切で、抱っこなどの行為により情緒的な欲求が満たされていきます。このような「甘えさせる」行為を通して「自己肯定感」が育まれていきます。自分は必要な存在、大切にされている存在、自分自身でいいのだなどです。この「自己肯定感」を土台に、自立へと向かっていきます。何歳になっても大切にしたい「甘えさせる」行為です。



一方、「甘やかす」は、お金や物などの物質的な要求に応える行為で、自立への土台となる「自己肯定感」にはつながりにくいと指摘されています。安易に買い与えてしまいがちな昨今、互いに気を付けたいものです。



先日、小学生の孫から「ママって、小さいときおばあちゃんからいっぱいチューされていたって言うていたよ！」「だから、ママもチューしに来るねん！」と笑いながら話してくれました。保育所に長時間預けていた分、お風呂や寝る前など、本当によくふざけてチューしたり、「こちょこちょ」したりしていました。実は、この「甘えさせる」という行為により、親自身もリセットされていたように思います。それにしても幼い頃のことを大人になっても鮮明に覚えているものなのですね。そして、その行為は繰り返されていくものなのですね。どきっ、ひやっとなります。皆さんには、どんな思い出がありますか？



『園長室だより』は、「共に」育てる関係づくりの一助となればと願って発行しています。ご意見・ご感想などをお寄せください。